

労働法研究Ⅰ

選択 2単位

藤木 貴史

1. 授業の概要(ねらい)

私たちの社会では、多くの人が雇用されて労働し、賃金を得ることで生活しています。しかし、労働者は使用者よりも力が弱いので、適切な法規制がなされないと、さまざまな困難に直面することになります。労働法は、こうした困難を防ぎ、人間が人間らしく生きられるようにさまざまな規制を行う法分野です。

労働法研究Ⅰでは、参考文献資料を輪読することにより、労働法に関する総合的な問題点を理解・考察することを目指します。

※進度は、学生の理解度に応じて前後することがあります。

※労働法未履修者がいる場合には、労働法の基礎知識の確認を先に実施するなど、授業内容を変更することがあります。

2. 授業の到達目標

- ①日本の労働社会を取り巻く現象について、問題点を総合的・複合的に把握する。
- ②労働法の仕組みを踏まえ、労働問題に対する具体的な解決の指針を示すことができる。

3. 成績評価の方法および基準

輪読への参加内容から総合的に判断します。

4. 教科書・参考文献

教科書

小熊英二 『日本社会の仕組み——雇用・教育・福祉の歴史社会学』 講談社現代新書

参考文献

島田陽一ほか 『戦後労働立法史』 旬報社(2018年)

井川志郎 『EU経済統合における労働法の課題』 旬報社(2018年)

佐々木亮、大久保修一、重松延寿 『まんがでゼロからわかる ブラック企業とのたたかい方』 旬報社(2018年)

5. 準備学修の内容

講義前に、輪読箇所を十分に読み込み、MELIC等において不明点を丁寧に調べることが求められます。

6. その他履修上の注意事項

【授業に臨む姿勢】

- ①休まないで出席することは理解の前提となるので、その旨心がけてください。
- ②六法/法令集は授業に持ってくる。また、自分で必要な条文を探せるようにしておくこと。

【関連科目】

労働法の基礎的知識ほか、憲法、民法、刑法、民事訴訟法等の知識があることが望ましい。

7. 授業内容

- 【第1回】 《イントロダクション》概説、労働法の基礎理解についての確認、序章
- 【第2回】 《輪読》第1章
- 【第3回】 《輪読》第1章の議論
- 【第4回】 《輪読》第2章
- 【第5回】 《輪読》第2章の議論
- 【第6回】 《輪読》第3章
- 【第7回】 《輪読》第3章の議論
- 【第8回】 《輪読》第4章
- 【第9回】 《輪読》第5章
- 【第10回】 《輪読》第6章
- 【第11回】 《輪読》第7章
- 【第12回】 《輪読》第8章
- 【第13回】 《輪読》終章
- 【第14回】 《輪読》本書全体の要旨の検討
- 【第15回】 秋学期にむけての輪読書籍の決定